

〈ひこうき雲〉（2・11の空）

夕日に赤く染まった“ひこうき雲”、昼間の白いのは“ヒコーキ雲”、なんの感情も伴わない時には“飛行機雲”。何が違うのかと問われても、こればかりは説明のしようがない。自分の中では、西に向かって引かれたこの日の赤い筋は、“ひこうき雲”と表現するのがぴったりなのだ。冷たい冬空に引かれた1本の赤い線は、公的な飛行機雲よりもなんとなく暖かみのある“ひこうき雲”の方が収まりがいいし、この時の気分ぴったりだ。



『言葉の羅針盤（若松英輔著）』のなかで、“漢字が直接的に普遍性を求めるのに対し、かな文字には「私」という通路を経て普遍にたどり着こうとする動きがあるように感じられる”とあった。時にはひらがな表記の中に「私」の意思を忍ばせたいと思う。